

「虎尾桜を心配する世話人会」の手で再生し、
毎年3月下旬頃に満開の花を咲かせる虎尾桜。



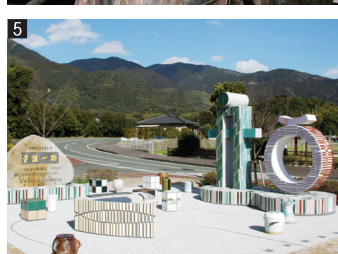
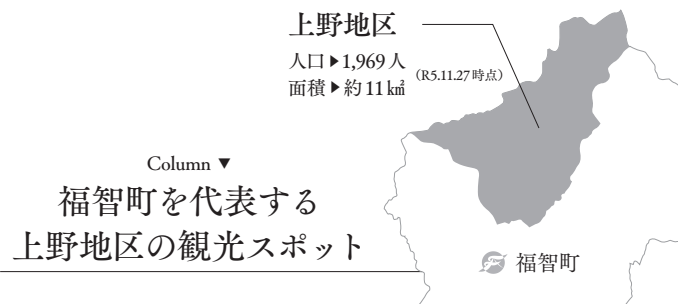
Interview ▼

推定樹齢600年の長寿支える 「虎尾桜を心配する世話人会」

枯 渴寸前の虎尾桜を発見した時、助けを求められている気がした私は、想いを同じくする7人と平成2年に「虎尾桜を心配する世話人会」を結成しました。樹木医を呼び、枝や幹を支え、日光が当たるようにするなど一生懸命に手当てした想いが通じ、虎尾桜は奇跡的な回復を遂げました。今では、毎年春に満開の花を咲かせ、町外から訪れる大勢の観光客の皆さんに感動を与えています。そんな姿を見ると込み上げるものがありますね。虎尾桜は回復後、安定しているとはいえ、まだ人の手が必要な状態です。私たちも頑張りますが、次世代を担う若い人にも、本会に参加・活動してもらえたらうれしいです。



虎尾桜を心配する世話会 **小林 省吾** 会長



1「九州百名山」などに選ばれ、町名の由来になった名峰「福智山」2上野峠を代表する景勝地「白糸の滝」。落差25mの滝の景色は壮観3室町幕府初代将軍・足利尊氏の伝説が残る「興国寺」4「興国寺」所蔵の県指定文化財「木造元庵禅師坐像」5「かもめの水兵さん」などで知られる町出身の童謡作曲家・河村光陽先生を、上野焼を駆使し顕彰した「協奏の庭」

町民の皆さんによる観光のまちづくりが30年以上前からスタート。その中でも「福智みどりの会」と、「虎尾桜を心配する世話人会」は、いち早く活動を始め、今もお取り組みを続けています。
福智町に息づく魅力を生かし、町を再び盛り上げ、未来へ――
原点となった熱い想いは、さざ波のように町内へ波及。現在では、志を同じくする多数の個人や団体が、各自の信念をもって、観光のまちづくりへの挑戦を続けています。

Interview ▼

上野の原風景を守りたい 「福智みどりの会」

町の観光スポットが多数点在する上野地区の美しい原風景を守るため、想いを同じくする有志13人と「福智みどりの会」を結成しました。20年以上の活動で、仲間も18人に増加。ホテルが多く生息する福智川周辺をはじめ、上野地区内の清掃や草刈り、春には「虎尾桜を心配する世話人会」のお手伝いで虎尾桜の周辺整備などに取り組んでいます。最近では、ホテルの名所としての知名度が上がり、季節になると町内外から多くの鑑賞者が来訪。地道な努力が実り、本当に嬉しく思います。会員



福智みどりの会 **矢島 正幸** 会長

の高齢化が進んでいます。できる範囲で、福智町の活性化のために活動が続けたいと思います。

受け継いだ魅力を生かし町を活性化する挑戦続く
かつて町の基幹産業だった炭鉱が閉山した後、右肩下がりに活気を失っていく町を再び盛り上げるため、先人から受け継いできた上野地区の美しい自然や景観、地域の歴史などの魅力を守り、そして生かす

町の中心部である福智町役場・金田本庁舎から車で約10分。福智山の麓を目指して、北へ5kmほど進むと辿り着く、上野地区――
町の風土を象徴する標高901mの「福智山」をはじめ、龍が住んだと語り継がれる「白糸の滝」、室町幕府の初代将軍・足利尊氏にゆかりのある「興国寺」、童謡作曲家「河村光陽」生誕の地、豊かな自然環境にしか生息しない「ゲンジボタル」の生息地、県内最大最古の奇跡のエドヒガン「虎尾桜」など、多数の観光スポットがこの地域に集中。人口は1969人と小さな地域ですが、観光の中枢として地域活性化へ導く大きな可能性を握っています。

「福智みどりの会」の活動成果によって、毎年5月下旬頃、福智川周辺に出現するゲンジボタルの乱舞。

【特集】

眩 げん 光 こう

福智の光を集めて

炭鉱という基幹産業を失った福智町。閉山後、衰退するこの町を活性化し、先人から受け継いだ誇りを未来へつなげようと上野地区を中心とした観光のまちづくりが進められています。今回の特集では、町のため、挑戦を続ける皆さんの取組や想い、その努力を生かすため、新たに動き出した町の挑戦をご紹介します。

**人口約2千の小さな地域
握る地域活性化の可能性**